

ピュアフラワー新聞

2015年7月号

— Pure Flower News —

Vol.15

＊七夕の伝説と朝顔の花

今回は7月ということで、七夕にちなんだお花をご紹介します。

七夕にふさわしいお花といえば、夏の風物詩でもある朝顔。七夕の時期に花を咲かせるからという理由はもちろんですが、もう少し深い意味合いがあります。

朝顔は別名「牽牛花(けんぎゅうか)」とも呼ばれており、「牽牛」というのは「牛を牽(ひ)く」ことを意味しています。その昔、中国では朝顔の種が薬として用いられ、とても高価なものとされていました。「牽牛花」という名前は、この朝顔の種を贈られた人が、牛を牽いて謝礼を交換したことが由来となっています。(ちなみにこの朝顔の種も、同様の由来から「牽牛子(けんごし)」と呼ばれ、現在も生薬として販売されています。)

さて、これがどのように七夕に関係するのかというと、朝顔が七夕の時期に咲くのは、「牽牛」の名のように牛を牽いて、彦星と織姫が出会えたことのあらわれだといわれているから、ということです。朝顔の花が咲いている様子が、よりいっそうロマンチックに感じられる、素敵な由来ですね♪

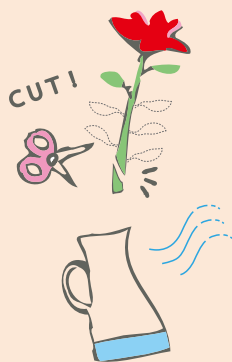


＊ 今月のワンポイントレッスン

今回は、夏場の花を長持ちさせる方法についてご紹介します。夏はお手入れひとつでもちが変わります! 綺麗なお花を長く楽しむために、こまめなお手入れを心がけましょう。

1. 茎の切り口はいつも新鮮に!

夏場は花びんの中で繁殖した細菌により、水が吸いあがりにくくなります。毎日茎をななめに切りましょう。
※切れ味の良いハサミでないと逆効果になるので注意!



3. お水はいつも新鮮に!

腐ったご飯を食べるとお腹を壊してしまうように、お花も細菌が繁殖したお水を吸い上げると枯れてしまいます。お水は毎日換え、花びんのぬめりも洗い流しましょう。

2. 余分な葉・つぼみ・花は取る!

お花は身体全体に栄養を送ろうとするので、余分な葉がついていると、花まで栄養が行き渡りません。同じ理由で、咲きそうにないつぼみも取ったほうがお花が長持ちします。また咲き終わったお花は置いておくと全体の老化を早めるので、早めに取り除きましょう。

4. 風通しがよく涼しい場所に置く!

お花も夏場は気温の高い場所では長持ちしません。直射日光の当たらない玄関など、暗めで涼しい場所に置いてあげましょう。ただしエアコンの風に当たる場所はNG!

最後に、お手入れにオススメのハサミをご紹介します。切り花を切るのに最適な、持ちやすく使いやすいハサミです。その優秀さはほとんどのお花屋さんが使っているほど! カラーはレッド・モスグリーン・ブルー・ピンクの4色。ご注文はお電話または配達スタッフにお申し付けください。

